

【 復活讃詞 第6調 】

てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
 天使 軍 爾 墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリアはか
 番兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
 立 爾 潔 體 尋

た ち り 。 なんぢはぢごくにいざなわれず
 爾 地 獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた
 地 獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきす。
 爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。
 何時 世 世

しととひとしくどうぎなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神智 役者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゆきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教聖

よ、なんぢのぼくぐんのためあめ、および
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいために、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生 命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゆ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゆよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 じょうせいのものよ、われらをあわれめ
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 れめよ。こうえいはちちとことせいしん
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 あわれめよ。

【 提綱 (プロキメン) 主日第6調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ} 主よ、^{なんぢ} 爾の民を救い、^{なんぢ} 爾の業に^{ぎょう} 福を^{ふく} 降し^{くだ} 給え、^{たま}

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたまえ。
福 降 給

誦經) ^{しゅ} 主よ、^{われなんぢ} 我爾に呼ぶ、^{われ} 我の防固よ、^{わため} 我が爲に^{もだ} 黙す^{なか} 母れ、

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたまえ。
福 降 給

誦經) ^{しゅ} 主よ、^{なんぢ} 爾の民を救い、

なんぢのぎょうにふくをくだしたまえ。
爾 業 福 降 給

【 使徒經 (アポストロス) 116 端 ロマ書 15 章 1~7 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが^{じん} ロマ人に^{たつ} 達する^{しよ} 書の^{よみ} 讀、

代禱) ^{つつし} 謹みて^き 聽くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{われらつよ} 我等強き者は^{もの} 強からざる者の^{つよ} 弱きを^{もの} 負いて、^{よわ} 己を^お 悦ばしむる可からず。^{おのれ} 我

^ら 各^{おのおの} 其^{その} 鄰^{となり} を^{よろこ} 悦ばしめ、^{ぜん} 善を^{もつ} 以て^{その} 其^{とく} 徳^た を^{いた} 建つるを^{けだし} 致すべし。^{おのれ} 蓋^{おのれ} ハリストスも^{おのれ} 己を

^{よろこ} 悦ばしめざりき、^{すなわち} 乃^{しる} 録されしが^{ごと} 如し、^{いわ} 云く、^{なんぢ} 爾を^{はづかし} 辱むる^{はづかしめ} 辱は^{われ} 我に^{およ} 及べりと。

^{およ} 凡^{むかし} そ昔^{もの} 録されし者は、^{みな} 我等を^{をし} 訓えん爲に^{ため} 録されたり、^{しる} 我等が^{われら} 忍耐と^{にんたい} 聖書の^{せいしょ} 慰藉と^{なぐさめ}

^{もつ} を^{のぞみ} 以て^{まも} 望を守らん爲なり。^{ため} 願わくは^{ねが} 忍耐と^{にんたい} 慰藉とを^{なぐさめ} 施す^{ほどこ} 神は、^{かみ} 爾等に^{なんぢら} ハリストス・

イスにしたが 循たがい いて 互おもい に 意おな を 同たま じくすることを 賜なんぢら わん、爾等が 心こころ を 一いつ に し、口くち を 一いつ に
 して、神かみ 我しゅ が 主ちち イスス・ハリスツスの 父さんえい を 讚ため 榮ゆえ せん 爲なんぢら なり。故なんぢら に 爾等相納あいい ること、ハ
 リスツスが 神かみ の 光こうえい 榮ため の 爲なんぢら に 爾等い を 納ごと れしが 如ごと く せよ。

(比較用 口語訳) わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。わたしたちひとりびとりは、隣り人の徳を高めるために、その益を図って彼らを喜ばすべきである。キリストさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかった。むしろ「あなたをそしる者のそしりが、わたしに降りかかった」と書いてあるとおりであった。これまでに書かれた事からは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。どうか、忍耐と慰めとの神が、あなたがたに、キリスト・イエスにならって互に同じ思いをいだかせ、こうして、心を一にし、声を合わせて、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神をあがめさせて下さるように。こういうわけで、キリストもわたしたちを受けいれて下さったように、あなたがたも互に受けいれて、神の栄光をあらわすべきである。

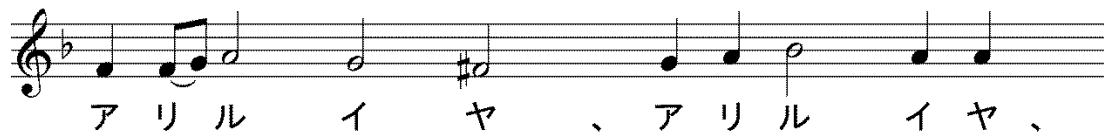
代禱) 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第6調 】

誦經) 至しじょうしゃ 上おおい 者した の 覆おも の 下もの に 居ぜん る 者のう は、全かげ 能した 者やす の 蔭や の 下す に 安やす ん ず、

誦經) 主しゅ に 謂い う、爾なんぢ は 我われ の 避かく 所れが、我われ の 防ふ 禦せぎ、我われ が 頼たの む 所ところ の 我われ の 神かみ なりと、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

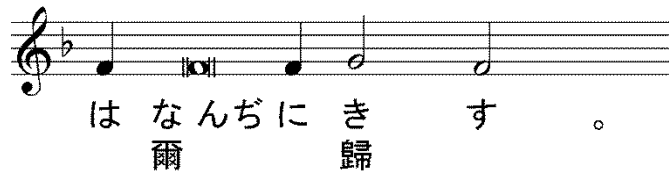
【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 33 端 9 章 27~35 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) マトフェイ^{でん}傳の^{せいふくいんけい}聖福音經の^{よみ}讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし} 謹みて^き聽くべし、

誦經) 彼の^か時^{とき}イイス^ゆス^{ふたり}往^{めしいかれ}き^{したが}しに、二人の^よ瞽^い者^こ彼^こに^い従^こいて、呼^こびて^こ曰^こえり、^こダ^こヴィ^こド^この子^こイ^こイス^こス

よ、^{われら}我^{あわれ}等^{かれい}を^え憐^いめ。彼^{めしいかれ}家^つに入^{これ}りしに、^い瞽^{われこれ}者^な彼^なに^な就^なけり、^なイ^なイス^なス^な之^なに^な謂^なう、^な我^な之^なを^な成^なす^なこ

と^{よく}を^{しん}能^{かれら}すと^{いわ}信^{しゅ}ずるか、^{しか}彼^{ここ}等^{おい}曰^{そのめ}く、^ふ主^いよ、^{なんぢら}然^{しん}り。是^{しん}に^{しん}於^{しん}て^{しん}其^{しん}目^{しん}に^{しん}觸^{しん}れて^{しん}曰^{しん}えり、^{しん}爾^{しん}等^{しん}の^{しん}信^{しん}

の^{ごと}如^{なんぢら}く^な爾^{そのめすなわちひら}等^{きび}に^{かれら}成^{いまし}る^いべし。其^い目^{つつし}即^{つつし}啓^{つつし}きたり。イ^きイス^きス^き厳^きしく^き彼^き等^きを^き戒^きめて^き曰^きえり、^き慎^き

み^{ひと}て^し人^{なか}に^{しか}知^{かれら}らし^{そのな}む^{あまね}る^{そのち}勿^あれ。然^{かれら}れ^いども^い彼^い等^い出^いで^いて、^い其^い名^いを^い遍^いく^い其^い地^いに^い揚^いげたり。彼^い等^いの^い出^いづ

る^{とき}時^{おし}、^{まき}視^よよ、^{ひと}瘡^{ひと}に^{たづさ}して^{きた}魔^{まき}鬼^おに^お憑^おらる^おる^お人^おを^おイ^おイス^おス^おに^お攜^おえ^お來^おれる^おあり。魔^お鬼^お逐^おい^お出^おさ^おれて^お瘡^お者^お

も^{もの}の^い言^いえり。民^い奇^いとして^い曰^いえり、^{うち}イ^{いま}ズ^かライ^かリ^かの^{ごと}中^{こと}に^か未^かだ^か是^かく^かの^か如^かき^か事^かあ^から^かざ^かり^かき。然^{しか}れ^{しか}ども^{しか}フ

ア^{らい}リ^{かれ}セ^{まき}イ^{かしら}等^よ曰^{まき}えり、^お彼^おは^お魔^お鬼^おの^お魁^おに^お藉^おり^おて^お魔^{あまね}鬼^{まち}を^{むら}逐^{めぐ}い^{めぐ}出^{めぐ}す。イ^{めぐ}イス^{めぐ}ス^{めぐ}偏^{めぐ}く^{めぐ}邑^{めぐ}と^{めぐ}村^{めぐ}と^{めぐ}を^{めぐ}巡^{めぐ}り

て、^{そのしょかいどう}其^{おい}諸^{おしえ}會^{つた}堂^{てんごく}に^{ふくいん}於^のて^の教^{みんかん}を^{もろもろ}傳^{やまいもろもろ}え、^{やまいもろもろ}天^{やまいもろもろ}國^{やまいもろもろ}の^{やまいもろもろ}福^{やまいもろもろ}音^{やまいもろもろ}を^{やまいもろもろ}宣^{やまいもろもろ}べ、^{やまいもろもろ}民^{やまいもろもろ}間^{やまいもろもろ}の^{やまいもろもろ}諸^{やまいもろもろ}の^{やまいもろもろ}病^{やまいもろもろ}諸^{やまいもろもろ}の

わづらい いや
疾 を 醫 せ り。

(比較用 口語訳) そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。そしてイエスが家にはいられると、盲人たちがみもとにきたので、彼らに「わたしにそれができると信じるか」と言われた。彼らは言った、「主よ、代式祈禱② (第7主日) - 6

信じます」。そこで、イエスは彼らの目にさわって言われた、「あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように」。すると彼らの目が開かれた。イエスは彼らをきびしく戒めて言われた、「だれにも知れないように気をつけなさい」。しかし、彼らは出て行って、その地方全体にイエスのことを言いひろめた。彼らが出て行くと、人々は悪霊につかれたおしをイエスのところに連れてきた。すると、悪霊は追い出されて、おしが物を言うようになった。群衆は驚いて、「このようなことがイスラエルの中で見られたことは、これまで一度もなかった」と言った。しかし、パリサイ人たちは言った、「彼は、悪霊どものかしらによって悪霊どもを追い出しているのだ」。イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

しゅよ、こうえいはなんちにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんちにきす。
 爾 歸

※代式祈祷③ へ